

不老長寿の願い、菊に託して

9日(火曜日)大宮八幡宮(大宮2-3-1)では、平安時代の重陽の節句に行われていたという「菊被綿(きくのきせわた)」が再現され、多くの来場者でにぎわっています。展示は、9月16日まで。

今日、9月9日は、重陽(ちょうよう)の節句です。重陽の節句は、菊の節句とも言われ、江戸時代に定められた五節句の一つです。古来より奇数は縁起が良い陽数とされ、1月7日の人日の節句(七草粥)、3月3日の桃の節句、5月5日の端午の節句、7月7日の七夕の節句とともに、五節句として大切な日とされてきました。

大宮八幡宮は、1000年の歴史を誇り、地域の鎮守として信仰の対象とされてきました。また、最近は都会のあわたしい生活の中で、時節の行事を失いつつありますが、大宮八幡宮では、人々の生活や文化と密接に結び付いてきた節句などの行事を大切に伝承しようと、年間を通して雅な伝統行事を行っています。今日から展示が始まった重陽の節句の展示は「菊被綿(きくのきせわた)」です。



この展示は、平成11年の今上天皇の即位10周年を奉祝し行われたのが最初で、それ以降毎年開催されています。菊被綿は、9月8日の夜に菊の花を真綿で覆って、菊の香を移し、翌9日の重陽の節句の朝に、露に湿ったこの綿を顔にあて、不老長寿を願うものです。大宮八幡宮の境内にある清涼殿のロビーには、200本ほどの菊の花に赤、白、黄の三色の真綿が被せられています。菊の花も三色で、白菊には黄色の真綿、黄色の菊には赤色の真綿を、赤い菊(紫)には白い菊が被せられています。

午前11時、大宮八幡宮の菊被綿の展示を見ようと大宮幼稚園の5歳児35名が訪れました。神官の説明を受けると、菊に顔を近づけ香りを嗅いだりする姿も。子どもたちは、「いい匂いがする」「とてもきれい」など、平安絵巻を楽しんでいました。展示は、9月16日(火曜日)まで。開館時間は、午前9時から午後6時。無料。

